

京都府の地震活動

令和7年（2025年）9月

第 38 巻 9 号

京都地方気象台

目 次

震央分布図、概況	・・・ 1
震央分布図、断面図	・・・ 2
【地震一口メモ】11月5日は津波防災の日です	・・・ 3

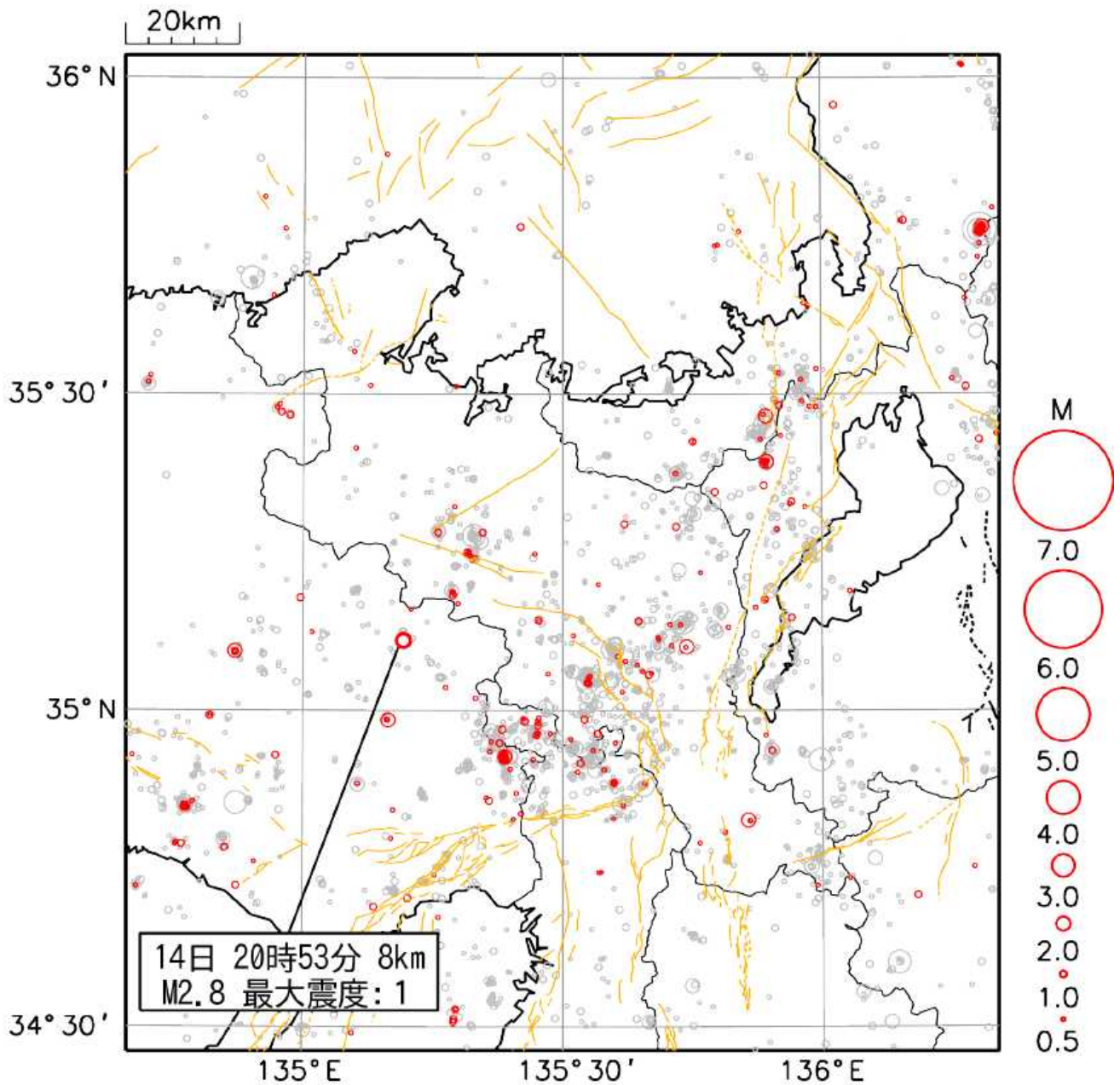
『京都府の地震活動』は、京都府及びその周辺の地震活動状況を解説するとともに、地震防災知識の普及に資するため、毎月刊行しています。

本誌に掲載した震源要素、震度データは、再調査された後、修正されることがあります。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

震央分布図（マグニチュード 0.5 以上、深さ 0～80km）



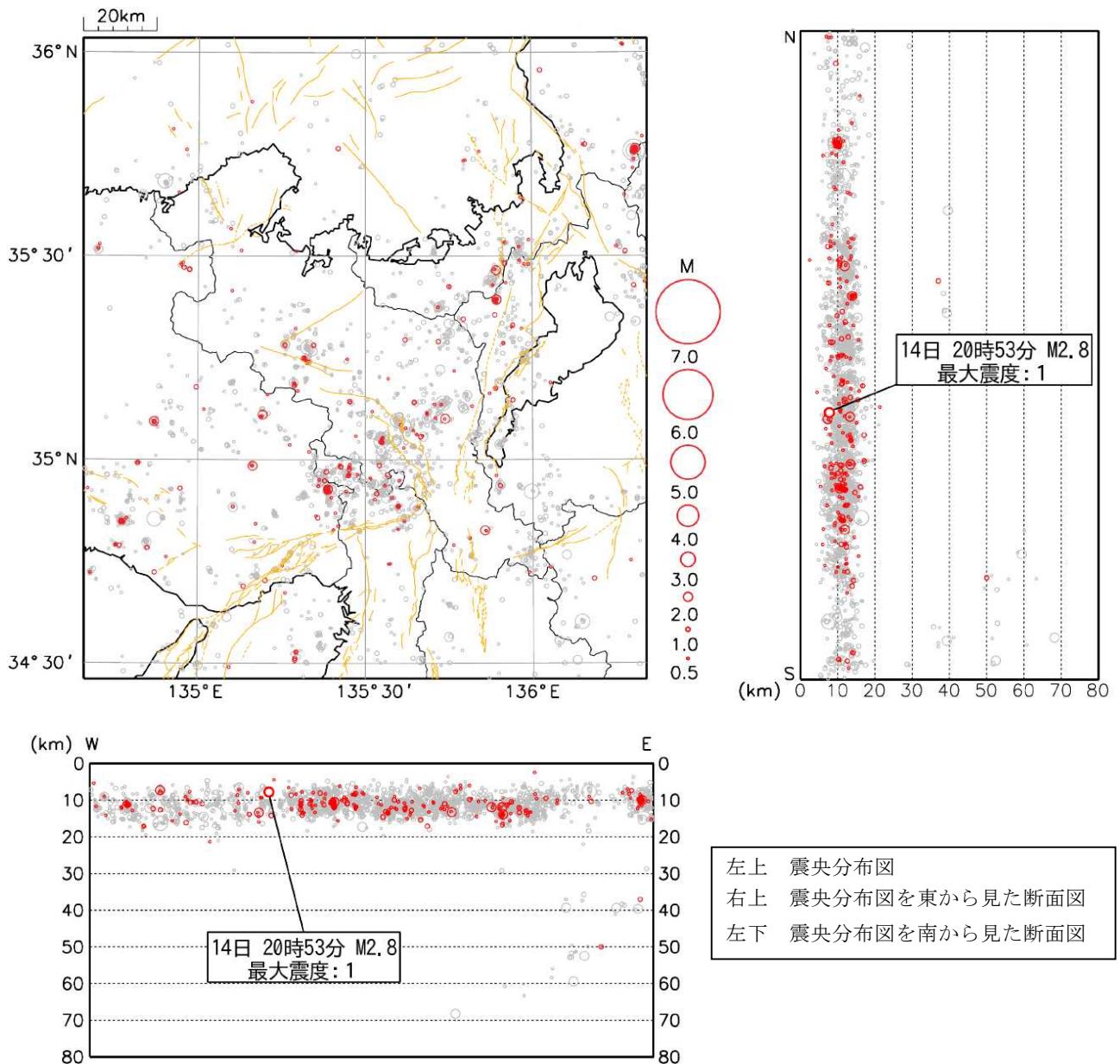
- ・（2024年10月1日～2025年9月30日、深さ 0～80km、 $M \geq 0.5$ ）
- ・2025年9月の地震を赤く表示（総数295）
- ・震源を表す「○」の記号は、マグニチュード（M）の大きさに対応したサイズで表記。
- ・震度 1 以上を観測した地震には、日時、深さ、マグニチュード（M）、最大震度及び京都府内で震度を観測した地震については京都府内最大震度を付記。
- ・橙色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

概況

9 月中、震央分布図内で観測したマグニチュード 2.0 以上の地震は 9 回、震度 1 以上の揺れを観測した地震は 1 回でした（8 月はそれぞれ 19 回、6 回）。

京都府内で震度 1 以上を観測した地震はありませんでした（8 月は 4 回）。

震央分布図、断面図（マグニチュード 0.5 以上、深さ 0～80km）



- ・（2024年10月1日～2025年9月30日、深さ 0～80km、M $\geq$ 0.5）
- ・2025年9月の地震を赤く表示（総数295）
- ・震源を表す「○」の記号は、マグニチュード（M）の大きさに対応したサイズで表記。
- ・震度 1 以上を観測した地震には、日時、マグニチュード（M）、最大震度を付記。
- ・橙色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

深さ数 km～約 20km に分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）、深さ約 30km～約 60km に分布している地震は、沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

【地震一口メモ】

11 月 5 日は津波防災の日です

2011 年 3 月 11 日、東北地方太平洋沖地震に伴う大規模な津波災害により、特に東北地方の太平洋沿岸地域において、多数の尊い命が奪われました。これを受け、同年 6 月には「津波対策の推進に関する法律」（平成 23 年 6 月 24 日法律第 77 号）が制定され、その中で毎年 11 月 5 日を「津波防災の日」と定め、国民の間に広く津波対策についての理解と関心を深めるようにすることとされています。ではなぜ 3 月 11 日ではなく、11 月 5 日が「津波防災の日」となっているのでしょうか。これは、1854 年 11 月 5 日（旧暦）に起きた安政南海地震で、大津波が和歌山県を襲った際に、濱口梧陵が稲むらに火をつけて、村人を高台に誘導し命を救った「稲むらの火」の逸話にちなんでいます。

毎年、津波防災の日にあわせ、気象庁では緊急地震速報の全国的な訓練を実施しており、今年（令和 7 年）は、11 月 5 日（水）に予定しています。緊急地震速報は見聞きしてから強い揺れに襲われるまでの時間のごくわずかであり、その短い間に慌てずに身を守るなどの防災対応をとるためには日頃からの訓練が重要です。この機会に参加してみましょう。

ところで、気象庁で保有しているデータ（1927 年から現在まで）によると、京都府沿岸で最大の津波をもたらした地震は、1964 年 6 月 16 日 13 時 1 分に発生した新潟県下越沖の地震（命名：新潟地震）であり、宮津で 115cm（舞鶴で 57cm）を観測しました。ただし、津波警報等解除後の現地調査による観測データでは、1983 年 5 月 26 日に発生した秋田県沖の地震（命名：昭和 58 年（1983 年）日本海中部地震）により、舞鶴市野原で痕跡高から 2.3m の津波があったとの記録があります（写真）。もっと昔の記録となると文献から知ることとなりますが、「日本被害津波総覧（渡辺偉夫著）」によると、日本海でたびたび津波を伴う地震は発生しており、例えば 1833 年 12 月 7 日の山形県沖地震（天保津波）では、山形県鶴岡市加茂で最大 9m の津波が襲来、島根県の隠岐島でも 2m～3m の津波があったようですが、京都府への津波の記載はありません。



写真 日本海中部地震による津波被害の様子
（舞鶴市野原港。5 月 27 日 12 時 15 分。舞鶴海洋气象台。
倉庫入口の半分の高さまで浸水の跡がある（暗色部）
気象庁技術報告 第 106 号（1984 年）より

気象庁ホームページ「緊急地震速報の訓練（令和 7 年 11 月 5 日）」

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/jishin/eew/kunren/2025/kunren.html>

和歌山県広川町ホームページ「稲むらの火の館 資料室 【稲むらの火】～安政地震津波の顛末～」

https://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamuranohi/siryo_inamura.html